(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年1月

第九期「詩の学校」第四回　「詩の方法」北岡淳子講師

１月２３日（土）、第四回「詩の学校」には２５名の方々が集い、北岡淳子講師による「詩の方法を考える」と題する講義を伺いました。その後、選ばれた５篇の詩作品の鑑賞、参加者相互の意見交換を行いました。

冒頭では、詩人クラブ草創期の先達のクラブ創設の詩精神を、それから創立５０周年記念誌に特集された座談会『今改めて<詩とは何かを問いう>』を紹介、今回のテーマとリンクさせつつパネラー５人（今道友信・石原武・原子修・冨永覚梁・小川英晴、コーディネーターは中村不二夫）のディスカッションのエッセンスを紹介いただき、参加した方々にとっても当クラブを内側から知る良い機会となり、好評でした。

「詩の方法を問う前に寄り道を」と題する先の冒頭の講話の後は、「なぜ詩を書くのか、詩について考える」ことをテーマに実作品――清水茂「雪」、八木道雄「ここにいるよ」、星野徹「蛍」、石原武「鶏」、山之口獏「座布団」の、それぞれ詩法も趣も異なる五作品を朗読・鑑賞。ご本人清水茂氏を含めた出席者総当たりで感想や意見を述べ、充実した２時間４０分を分かち合いました。閉会後は、前回取り損こねた全員の集合写真を撮影しました（２名は帰宅後）。

林哲也「詩の学校」担当理事より：　二月の詩の学校には「できるだけ三月の合評会作品」を持参してほしい旨の連絡がありました。引き続き、皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

閉会後、全員集合（但し二名散会後、　撮影：林担当理事）↑、

上は北岡講師、および会場風景

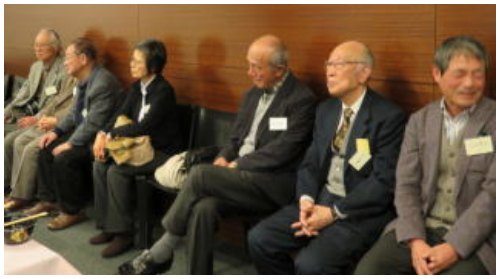
１月新年会報告

１月９日（土）　午後３時～午後５時　　於：東大駒場交流ラウンジ（学生食堂３F）

以下に、当日の写真をアップします。

←冒頭の挨拶・乾杯および会場の風景↓

←新入会員＆会友の紹介　↓会場風景



太田康成

遠方から・久々に・おなじみの方も

余興も入り、和気あいあいの参加者

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年2月

第九期「詩の学校」第五回　「詩と詩人」中原道夫講師

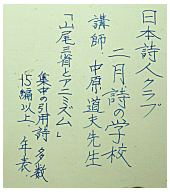
・ 日時：　２月27日（土）
・ テーマ：　「詩と詩人・山尾三省とアニミズム」　（1938～2001）
・ 受講参加者：　30名
・ 講師自身の人生と比較しながら、詩人山尾三省の生きざまと、その詩集から５編（資料は13編）を具体的に説明。学生時代に哲学を学びながら敢えて中退の道を選び、仕事や妥協の生活を辞め、住いを都心から屋久島の山に移す。自然に肌で触れた生活、生き方そのものが詩となる。縄文杉が詩人に語る詩など圧巻。人は原点帰りが必要、自然や動物と対等であり文明に汚染されているのは人であると詩で示唆する。山尾は宮沢賢治を尊敬した。講師はその関連性を説明され、情熱的な講義であった。（担当・林 記）

担当理事より：　３月26日に予定されている第六回「詩の学校」は今期の最終回。ふたたび参加者の作品合評会を行います。
対象作品を奮って担当理事までお寄せください。皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

閉会後、全員集合（但し中村吾郎氏退席後、　撮影：谷口ＨＰ担当）↑、

上は中原講師、および会場風景



2016年２月例会

２月１３日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、下記の催しが行われました。出席者は114名。

冒頭の会長の挨拶に続く一部の朗読は、山本みち子（東京）・日笠芙美子氏（岡山）・、酒井力氏（長野）の三氏。
休憩を挟んだ二部では中村不二夫氏による「辻井 喬の詩と思想」　（朗読：竹内美智代・原田道子）をお聞きしました。
詩人・辻井喬と企業家・堤清二という両面の顔を持ちつつ、虚構と理想の人生を生きた作者が、激動の時代を背景にどう変遷
していったか？　年表と初期作品を含め、1990年代の爛熟期を中心にした辻井作品の朗読を交えた講話は興味深く、充実した
105分でした。

♣例会終了後に、ファカルティハウスで懇親会を行いました。

開会の挨拶：武子会長
司会：川崎芳枝氏・長尾雅樹氏

山本みち子氏

日笠芙美子氏

酒井力氏

㈳日本詩人クラブ　2016年 2月　例会のご案内

日時　2016年2月13日(土) 14時～17時　　会員･会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分

例会終了後、ファカルティーハウスで交流会があります。会費3,000円

詩朗読＆スピーチ　山本みち子氏（東京都武蔵村山市）

日笠芙美子氏（岡山県早島町）

酒井力氏（長野県佐久市）

講演

「辻井喬の詩と詩想」　講師 中村不二夫氏

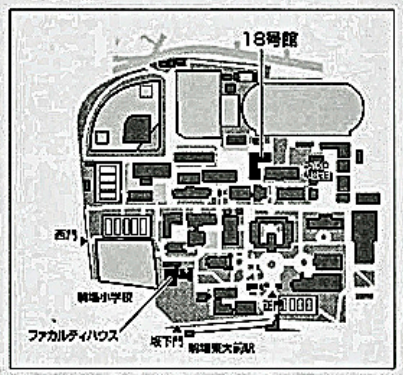
講師プロフィール

中村不二夫（なかむら　ふじお）氏

1950年神奈川県横浜市生まれ。神奈川大学法学部卒業。恵泉女学園短期大学非常勤講師（1992年～99年）。1970年代半ばより「詩学研究会」で嶮岨信之に学ぶ。1979年、第一詩集『ベース・ランニング』を詩学社より刊行。辻井喬の推薦で日氏賞候補。1986年、『詩と詩想』編集スタッフとして参加。90年代に入り、個人誌「火一箭」に「戦後詩探求」を発表。同時期、志賀英夫主宰「櫂」に「現代詩展望」を連載する傍ら、同氏の「戦後詩誌の系譜」の編纂に協力、戦後詩誌の収集に務める。

既刊詩集に「Mets」（土曜美術社出版販売、第1回日本詩人クラブ新人賞）、『使徒』（土曜美術社出版販売）、『コラール』（土曜美術社出版販売、第33回地球賞）、『House』（土曜美術社出版販売）など。詩論集に「山村暮鳥論」（有精堂出版、沖積舎再版）、「戦後サークル詩の系譜」（知加書房）、『詩の音』（土曜美術社出版販売）、『現代詩展望Ⅰ～Ⅲ』（詩圃工房）、『廃墟の詩学』（土曜美術社出版販売、第4回秋谷豊詩論賞）、『戦後サークル詩論』（土曜美術社出版販売）など。

現在「詩と詩想」編集委員。詩誌「WHO'S」「櫂」同人。



例会担当理事　冨岡悦子

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

会場風景

中村不二夫氏による講演「辻井喬の詩と思想」と、辻井作品の朗読：　竹内美智代・原田道子両氏

お礼の言葉：　担当・冨岡理事（例会）

懇親会会場風景

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年３月

第九期「詩の学校」
第六回（最終回）「受講生の作品」
&閉校式

３月２６日（土）14時から16時半まで、日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第九期の閉校式を兼ねた第六回「詩の学校」が、27名の参加者
を迎えて行われた。

司会の八覚正大・実行委員が口火を切り、林哲也・担当理事の紹介があり、講師の新延拳氏が配布された二枚のプリント「詩人としての覚悟
―宗左近」を資料として、詩作のエッセンスを語られた。プラトンの『国家』で詳述される「人間は洞窟の奥に顔を向けて縛りつけられている囚人であ
り、背後の灯火によって壁に照らし出された影を眺めることしかできない。そしてその影が実在であると思い込む」というイデア論を、宗左近の「伝えること
のできないもの それが真実」という言葉と、作品「影絵」（宗左近『螺旋上昇』より）を通して伝えられた。
その後、14作品の講評に入った。新延氏とアシスタント・峯澤典子氏が意見を述べ、参加者の感想を訊く……という手順で作品合評を行ったが、
今回もそれぞれ個性豊かで、数々の良い作品に出会えた。上の詩論と響き合う詩も何篇かあり、楽しい研究会であった。
最後に、今期の校長を務められた日本詩人クラブ・武子会長から、締めくくりとして今期の経過と今後の展望・抱負を伺い、閉校式とした。
みんなで近くの〈香港酒家〉に流れて行き、19時まで打ち上げ会を行った。

講師陣・参加者の皆々さま、たいへんありがとうございました。スタッフ各位におかれては、半年間、ほんとにお疲れさまでした。
次回は七月から第十期の「詩の学校」が開講・運営されます。引き続いて、皆さまのご参加をお待ちしております。

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

↑冒頭部分　　会場風景　↓　　右下欄は、アシスタント・峯澤典子氏（上）・閉校式の武子校長（下）

講師・ 新延拳 氏

３月例会報告

３月１２日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、下記の催しが行われた。冒頭の会長の挨拶に続く一部の朗読は、秋山公哉（埼玉）、小野恵美子（埼玉）、神田さよ（兵庫）の三氏。
休憩を挟んだ二部では一色真理氏による　「我が６０年代――若き日の詩人たちの肖像」をお聞きした。60年代の全共闘時代を駆け抜けた詩人で友人の谷口利男氏を中心にした青春群像を、鮎川信夫・石原吉郎両氏との交流のエピソードを交えながら浮彫りにした。オーディアンスには同時代を共有した方々も多く、また後続の世代の方々も何かを確かめるように、熱心に聴き入っていた。

♣例会終了後には、１８号館４階のオープンスペースで懇親会が行われた。
　以下に会場の様子をアップしましたので、ご覧ください。

開会の挨拶：武子会長

朗読者１・秋山公哉氏

朗読者２・小野恵美子氏

朗読者３・神田さよ氏

関西大会のご案内

↑↓　会場風景、担当からの報告（三賞・入会・会計）＆司会

一色真理氏による講演「我が６０年代―若き日の詩人たちの肖像」

㈳日本詩人クラブ　2016年 3月　例会のご案内

日時　2016年3月12日(土) 14時～17時　　会員･会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分

例会終了後、同会場4Ｆで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

詩朗読＆スピーチ　秋山公哉氏（埼玉県桶川市）

小野恵美子氏（埼玉県熊谷市）

神田さよ氏（兵庫県西宮市）

講演

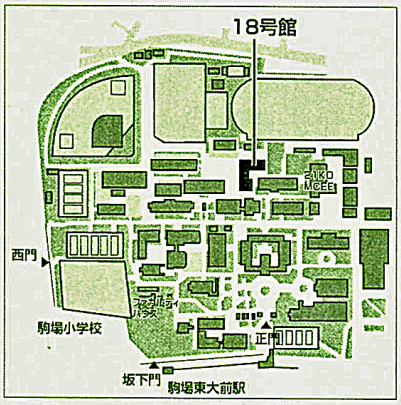
「我が60年代―若き日の詩人たちの肖像」

講師 一色真理氏

講師プロフィール

一色真理（いっしき　まこと）氏

1946年名古屋市生。早稲田大学第一文学部露文専修卒業。在学中、第一次早大闘争で半年余に及ぶ全学バリケード・ストに参加。早稲田詩人会で詩作を始める。当時の回想をもとに半自伝小説『歌を忘れたカナリヤは、うしろの山に捨てましょか』(ＮＯＶＡ出版)を執筆。今回の講演は本書に書かれた時代を中心に行われる。現在「そうかわせみ」「ファントム」同人。月刊「詩と思想」編集長。日本現代詩人会会員。詩集『純粋病』(詩学社・第30回Ｈ氏賞)、『エス』(土曜美術社出版販売・第45回日本詩人クラブ賞)ほか。ネットでブログ「ころころ夢日記」を書き続け、夢に関する著作として『夢の解放区』(共著・パロル舎)、電子ブック『一色真理の夢千一夜』(ePubブックストア)ほかがある。



例会担当理事　冨岡悦子

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年４月

「2015年度 三賞授賞式」報告（2016年４月９日実施）

去る４月９日、三賞の贈呈式と記念パーティが、東大駒場21KOMCEEレクチャー・ホールと同MMホールで無事に挙行されました。詩界賞は該当者がなく残念だったものの、終始なごやかな雰囲気で、遠路はるばる参加された方々も含め、良い時間を分かち合いました。

、

当日のスナップをご紹介しつつ、当日ご参加不可能だった方とも、その雰囲気のいったんを分かちたく思います。

●三賞贈呈式●

日本詩人クラブ賞： 林 嗣夫氏

日本詩人クラブ新人賞：　颯木あやこ氏

開会の挨拶　太田雅孝理事長

選考経過報告　村尾イミ子担当理事

武子和幸会長

冒頭の挨拶

司会：　北岡淳子・下川敬明　　クラブ賞選考経過　俗杏子委員長　　新人賞選考経過　根本明委員長　　詩界賞選考経過　三田明委員長

クラブ賞受賞者紹介：石川逸子氏
新人賞受賞者紹介：葛原りょう氏

上二段：　賞状授与・花束贈呈・受賞者の言葉＆朗読

会場風景１　　会場風景２　　会場風景３

三賞担当・村尾イミ子理事　　閉会の言葉：　前会長・細野豊氏

●パーティ風景●

↓左から司会（植木・石川厚志）・颯木氏のご両親・石川逸子氏　　冒頭のご挨拶：　比留間一成 元会長

日本現代詩人会理事長・新延拳氏　　ご挨拶＆乾杯の音頭：　清水茂氏　　野村喜和夫氏

下は、会場風景もろもろ

授賞式プログラム＆参照速報へのリンク

[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年５月

「第20回　関西大会」報告（2016年５月14日実施）

去る５月14日（土）午後13時半より、ホテルアウィーナ大阪を会場として、「一般社団法人 日本詩人クラブ　第20回関西大会」が、119名の参加者を集めて催されました。（一般49名、関西６県以外44名）
以下、盛大な大会ながらアットホームで和やかな一日となった関西大会を振り返り、スナップ写真を中心に当日の模様をご報告いたします。
準備に実施に尽力された関係者の皆さま、たいへんお疲れさまでした。充実した一日を、ありがとうございました。

開会の言葉　（神田さよ）

メイン会場風景　太田雅孝理事長による理事会報告＆役員紹介
冒頭の挨拶（武子和幸会長）

第一部　セレモニー、冒頭の挨拶、講演「詩という希望へ」

第１部 司会（武西良和）
会場風景2

クラブ賞受賞挨拶と朗読（林嗣夫）

新人賞受賞挨拶と朗読（颯木あや子）

会場風景３

「詩という希望へ」　（河津聖恵）

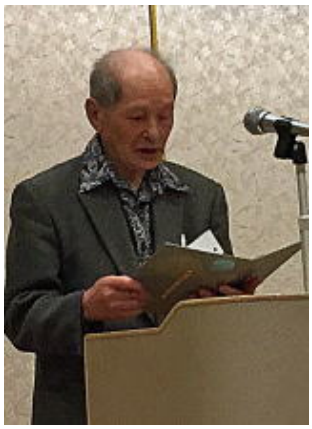
第二部 「京都、詩のトポス」＆会員の自作詩朗読

第２部司会　（岡崎 葉）

「花街、祇園の景色―詩の原郷として」　（中西弘貴）

「春の響きを奏でる」　（淺山泰美）

会員各位の自作詩朗読――左より、魚本藤子（山口）・小丸由紀子（広島）・小野田潮（岡山）・飽浦 敏（兵庫）



自作詩朗読続き―中西 衛（京都）・中原秀雪（愛知）　　次回地方大会お誘い　（高岡修）

閉会の言葉（江口 節）

●パーティ風景●

懇親会開会挨拶　（薬師川虹一）　　懇親会乾杯　（瀬崎祐）　　懇親会司会　（岸田裕史・秦ひろこ）

懇親会会場風景

下は、会場風景もろもろ　　スピーチ：　以倉鉱平/日本現代詩人会会長、　川中子義勝/日本詩人クラブ前理事長）、長津功三良

スピーチ続き：　重光はるみ、八木真央、柳内やすこ

閉会挨拶　（金堀則夫）

第20会関西大会アウトライン

[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年６月

「第67回総会」（2016年6月11日）報告

去る６月11日（土）午後２時より、東大駒場18号館ホールを会場として、「一般社団法人 日本詩人クラブ　第67回総会」が、以下の要領で行われました。順を追って、当日のスナップでご紹介していますのでご覧ください。議題としては、
①平成27年度事業報告および決算報告について。
②平成28年度事業計画案および予算案について。
③理事会提案事項。
④永年会員の顕彰。
⑤会員の意見・消息。　⑥その他

午後５時からは駒場生協（学生食堂）２Fで、懇親会を行ないました。今後の運営に対して、皆さまの積極的なご理解・ご協力をお願いいたしたく、よろしくお願いいたします。ご参加の皆さま、ほんとにありがとうございました。

開会の言葉：　長谷川忍　　総会成立資格確認：　太田雅孝理事長　　会長挨拶／物故詩人への黙祷：　武子和幸会長　　議長団選出／承認：貢誠／塩野とみ子

事業実績概況説明＆法人（理事長）：　左から順に――下川敬明（「詩界」担当）　　水嶋きょうこ（広報「詩界通信」担当）　　中村吾郎（地方大会担当）　　林 哲也（詩の学校担当）　　岡野絵理子（入会担当）

他に冨岡悦子（例会）　　村尾イミ子（三賞）　　谷口ちかえ（広報ＨＰ）　　細野 豊（国際交流）　　中井ひさ子（詩書画展＆アンドロジー担当理事による報告がありました。

江口 節（関西大会担当）　　小野ちとせ（会計担当）　　会場風景

先達詩人の顕彰　（周田幹雄氏・高橋次夫氏）

会場風景

閉会の言葉：　総務・鈴切幸子

●パーティ風景●

乾杯・神品芳夫氏

「第18回 詩書画展」報告（2016年6月20日～6月25日実施）

クラブの隔年行事である「第18回 詩書画展」が６月20日～25日まで、６日間を会期として銀座・地球堂ギャラリーで催されました。会期中の延人数は200余名、参加者の朗読と、小柳玲子氏による講演が行われた最終日には100名近い方々が参加され、こじんまりとした会場は、下でご紹介している通りの活況となりました。

意匠をこらした朗読も、たんたんと読まれる朗読もあり、内面からあふれる詩人ならではの主張と個性を感じたひととき。
洒脱な小柳氏の楽しいお話も好評で有終の美をかざる行事となりました。

作品を出展してくださった方々、足を運んでくださった皆さま、ありがとうございました。下のスナップ・ショット・ギャラリーで当日の様子をおたのしみください（敬称略）。

●出展作品に囲まれて、朗読会●

朗読冒頭：　勝嶋啓太　　水嶋きょうこ　　武子会長・比留間元会長ほか大入り満員の

場風景

朗読続き：　左から：　橋本由紀子　　天野 英　　琴 天音　　松田悦子vs庄司 進のコラボ

朗読の続き２：　左から、中原道夫　　中村妙子（金子みすず詩の朗読）　　堀内みちこ　　林 柚維

朗読の続き３：　左から、 田井俊江　　西野りーあ　　渡 ひろこ　　・細田傳造　　名古きよえ　　根本 明

会場風景もろもろ

朗読と助っ人と観客と……：　左から、　細野 豊　　竹内美智代と姪子さん（書で協力）　　比留間元会長のスピーチ　　The T's 応援団　　そして……

●小柳玲子氏の講演●

講演風景：　聞き入る参加者＆受付

●詩書画展のサイト　案内はがきへのリンク●

[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

７月例会報告

７月９日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、下記の催しが行われた。
冒頭の会長の挨拶に続く一部の朗読は、塚本敏雄（茨城県つくば市）、渡辺恵美子（埼玉県さやま市）の両氏。
休憩を挟んだ二部では、福間健二氏による　「詩のいまをどう考えるか」をお聞きした。
福間氏が2012年に詩祭に参加して以来、関心を持ってきたスロヴェニアの詩人のひとり、トマジュ・シャラムン氏をはじめとして、福間氏が近年の読書から vivid な生命の息遣いをビビッと感じた日本の詩人６人の作品朗読を交えた講演は、詩作品をテキストとしてではなく、生命力そのものとしてどのように感受するか、またそれを私たち自身の書き方にどうつなげるかを示唆されたものであった。
参加者は遠く熊本やその他の地域から、また常連から若い方々を含む新顔まで色々で、〈……講演ではなく、ライブだった、のか……〉（ネット上の書き込みより―参加者・M氏）、という感想も目にした。

♣例会終了後には、１８号館４階のオープンスペースで懇親会が行われた。

開会の挨拶：武子会長
司会：　長尾雅樹＆川崎芳枝氏

朗読者１・塚本敏雄氏氏

朗読者２・渡辺恵美子氏

会場風景

福間健二氏による講演　「詩のいまをどう考えるか」

藤子迅司良氏

閉会の辞：太田雅孝理事長

懇親会風景　（18号館4F　オープンスペース）

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年7月

第十期「詩の学校」
第一回（開校式）
黒羽英二氏による講話「先達詩人に学ぶ」

７月23日（土）14時から16時半まで、一般社団法人 日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期の閉校式を兼ねた第一回「詩の学校」が、28名の参加者を迎えて行われた。

司会の八覚正大・実行委員が口火を切り、今期も「詩の学校」校長を続投していただく日本詩人クラブ会長・武子和幸氏から、今後の展望を含めた、「詩の学校」に期するところを語っていただいた。

次に「詩の学校」担当理事・林哲也氏より、講師・黒羽英二氏の紹介があった。 当日、配布された21ページに及ぶ資料には講師の豊かな経験が反映されているが、それ以上に、黒羽講師からくり出される先達詩人や編集者に直接接した思い出や逸話は、〈ライブ〉といった趣だった。詩界の歴史の実態を説きつつ、先達詩人たちの貴重な作品も紹介された。

初顔合わせの方も何人もいらっしゃり、自己紹介も行われたが、最後にほぼ全員で（中村吾郎理事＆撮影者・谷口を除く）全員で集合写真を撮影できたことは、幸いであった。以下で当日の模様をご紹介した。

次回は8月27日（土）佐久間隆史氏を迎えて、「『うまきこと、へたのごとし』という言葉と東洋の心」と題してお話を伺う。大勢のご参加をお待ちしています。

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

林哲也担当理事
黒羽英二講師

武子和幸校長

[トップページ]

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年8月

第十期「詩の学校」
第二回　　佐久間隆史氏による講話「詩作方法」

８月27日（土）14時から16時半まで、一般社団法人 日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期第二回「詩の学校」が、28名の参加者を迎えて行われた。

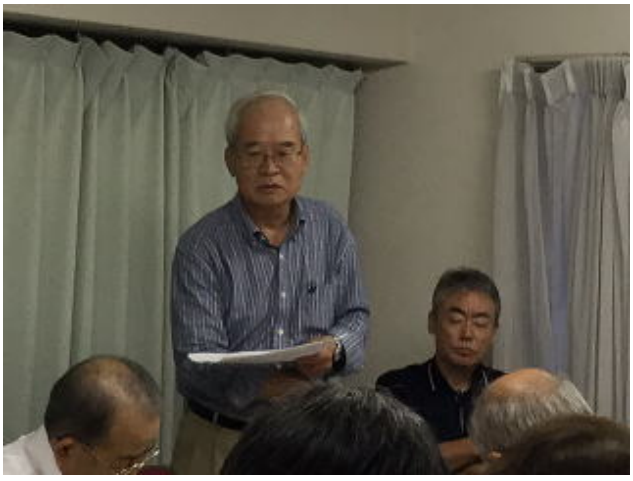
佐久間隆史講師によるテーマは「『うまきこと、へたのごとし』という言葉と東洋の心」で、その内容は、以下のようであった。

・　「詩とは何か、誌をつくる心とは、誌のうまさとは……と誌の本質の究極にあるもの・ことを優れた詩人、芸術家が残した言葉から探る。
　共通して見えてくるのは、禅僧の法悦、盤珪、沢庵などがいう禅の、「霧無我）＝空＝絶対＝悟りの体験」に繋がる。
・ 松尾芭蕉―神技の体験者といわれる句づくりは迅速で適格無比。　萩原朔太郎―光が出たら一気に生め。
　西脇順三郎―本当の芸術は偶然であって発見である。　エリオット―予期しない＝偶然の結合。　リルケ―無我。
　ヴァレリー―これ以外にはない絶対性。　プルースト―瞬間の恍惚の体験。　ヘルダーリン―啓示。
　ニーチェ―啓示、恍惚の境と忘我の境。　ボードレール―万物照応。　などの言葉から。
・ 良い詩はこちらから問いかける要素を持っている。

次回は９月24日（土）三田洋氏を迎えて、「ことばには何ものかが宿っている」と題し、詩のことばと日常のことばについて、ことばの特質、深い奥
行、神秘的側面など多くの詩人や詩作品を取り上げる。

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

講師・佐久間隆史＆佐久間氏を囲んだ会場風景



左から、林哲也担当理事・八覚正大委員・太田雅孝理事長

活発な質疑応答

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年９月

第十期「詩の学校」
第三回　講師・三田 洋氏による「詩と詩人」

９月24日（土）14時から16時半まで、一般社団法人 日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期第三回「詩の学校」が、16名の参加者を迎えて行われた。

三田 洋講師によるテーマは「ことばの秘境を求めて―言葉の奥行きと詩の魅力」で、その内容は、以下のようであった。

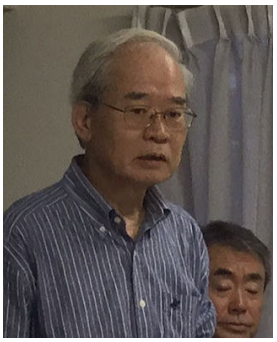
・　約十万年前に発生したとされることば。そこからの言霊思想。言葉のもつ不思議な力、エネルギー、神秘性に目を向けることだ。
　私たちは言葉のもつ「意味」ばかり重視しがちだが、響き・声・イメージと夥しい歳月の中で背負ってきた言葉に何ものかがヒ素員でいる。

・　北原白秋から会田綱雄、岸田衿子、荒川洋治など11人（13作品）の詩人たちを掲げ、一作ごとにメンバーが朗読し、その詩に何を感じる
　かを解説した。

次回は10月22日（土）、黒羽由紀子氏を講師に迎え、「詩的スピリットについての話を交えながら」〈受講者作品の合評会〉を行います。
現在、14作品が熱心な受講者各位から寄せられています。複数の講評や感想を交えて、活発な合評会になることと思います。

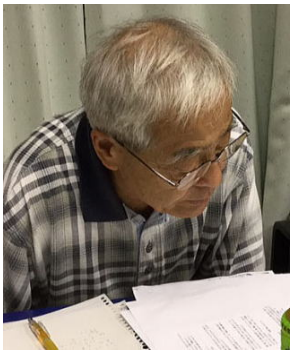
興味のおありの方は、下記までお問い合わせください。

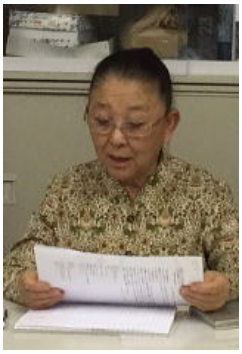
連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com



林担当理事によるオープニング＆三田講師

↑　教室風景、参加者およびスタッフの朗読風景　↓





９月例会報告

９月10日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、下記の催しが行われた。
夏休みをはさんで再開された月例会冒頭は、会長の音頭で故人への黙祷（西岡光秋氏）を捧げられた後、地方への目配りと70周年まで見据えた幅広い視野に基づいたスピーチがあった。それに続く一部の朗読は、はるばる新潟から上京された寺井青氏と、横浜市在住の関中子氏。

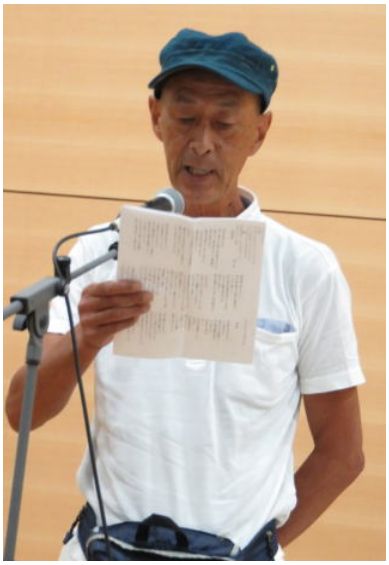
続いて例会担当理事・冨岡悦子氏が本年度の日本詩人クラブ新人賞受賞者・颯木あやこ氏を紹介。受賞記念の「めざめるまで―私の創作のいま―」をお聞きした。まっすぐご自分の詩作の原点に向きあい、言葉を慎重に選びながら伝えようとする真摯さが新鮮で、たいへん評判が良かった。
各理事からの連絡と休憩を挟んだ二部では、北海道で詩誌「饗宴」を長らく主宰されるなど、北の地で活躍される瀬戸正昭氏をお迎えして、「朔太郎と音楽、あるいは音楽としての詩」をお聞きした。下のスナップでその一端をご紹介した。

♣例会終了後には、１８号館４階のオープンスペースで懇親会が行われた。

冨岡担当理事

武子会長

司会のニ氏



寺井 青氏

関 中子氏

受賞記事掲載紙を紹介

颯木氏による小講演

瀬戸正昭氏

㈳日本詩人クラブ　2016年 9月　例会のご案内

日時　2016年9月10日(土) 14時～17時　　会員･会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横，徒歩4分

例会終了後，同会場前の建物4Fで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

詩朗読 & スピーチ　寺井　青氏（新潟市）

関　中子氏（横浜市）

第26回日本詩人クラブ新人賞受賞記念小講演

「めざめるまで ―私の創作のいま―」　講師 颯木あやこ氏

講師プロフィール

颯木あやこ（さつき　あやこ）氏

1973年旧西ドイツ・ベルリン生まれ。上智大学文学部社会福祉学科卒業。詩集に「やさしい窓口」（土曜美術社出版販売　2009年）、「うす青く春は傾く」（思潮社　2012年）、『七番目の鉱石』（思潮社　2015年）にて第26回日本詩人クラブ新人賞受賞。「歴程」同人，日本現代詩人会会員。

講演

「朔太郎と音楽、あるいは音楽としての詩」　講師 瀬戸正昭氏

講師プロフィール

瀬戸正昭（せと　まさあき）氏

1951年北海道岩見沢市生まれ。農村部の栗山町で育つ。早稲田大学第二文学部文芸科卒業。卒論は「チャイコフスキーの交響曲」。詩集に『夜の歌』（私家版　1987年）、『野菜小詩集』（ライフ出版社　1993年）、『音楽』（林檎屋　1999年）、『花の国』（林檎屋　2011年）。現在，詩誌「雫宮」主宰し，第75号まで刊行，日本詩人クラブ，北海道詩人協会各会員。

例会担当理事　冨岡悦子

[トップページ]

© 1999 一般社団法人 日本詩人クラブ all rights reserved

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年10月

第十期「詩の学校」
第四回　講師・黒羽由紀子氏による「講話+受講生の作品評」

10月22日（土）14時～16時半、一般社団法人日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期第四回「詩の学校」が和やかな雰囲気のもとに行われました。
講師に黒羽由紀子氏を迎え、21名の受講者とともに事前に投稿された14作品について、活発な意見や感想を交換し、まとめの講評をお聞きしました。

冒頭では黒羽氏が「詩的スピリットとは何か」を、実際の作品―清水茂氏の「遠いひびき」（詩集『夕暮れの虹』より）および網谷厚子氏の「洞」（詩集『魂魄風』
（まぶいかじ）』より）―を紹介しながら、<命の真実を遍路する>詩作という営みについて述べ、作者の精神性と魅力を探る解説をされました。
その後、事前に提出された受講生の作品の本人朗読、参加者の批評、本人の感想、講師の批評の順に、一作品ずつ丁寧な合評が行われました。

次回は11月26日（土）、瀬戸口宣司氏を講師に迎え、その「詩作方法」について伺います。。
みなさまのご参加をお待ちしています。また、興味がおありの方は、下記までお問い合わせください。

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

講師・黒羽由紀子氏と教室風景

「国際交流2016　中国」報告

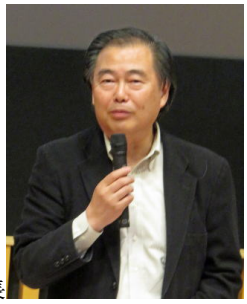
10月８日（土）、東大駒場21KOMCEEレクチャーホールにおいて「国際交流2016 中国」が71名の参加者を集めて催された。武子会長の挨拶を冒頭に、佐川亜紀氏が四半世紀近く、日本に在住しつつ、世界で活躍される田原氏を紹介した。

田原氏の講演は、質疑応答を含めて二時間に及び、日本・中国・英国・韓国をはじめ、世界的な視野で詩と言語に取り組む楽しさと困難を、私たちも味わった。
近年、世界は狭くなる一方だが、本講演を通しても、私たちの詩が今後は世界で通用するものにならなければならない……ことを感じた参加者は多かったようだ。日本人あるいは日本語について、外側から見る視点を与えられたひとときであった。
田原氏は日本語で詩を書き、谷川俊太郎はじめ日本の詩を中国語に翻訳して紹介する。谷川俊太郎の「かっぱかっぱらった」を中国語でも朗読、私たちに親しい日本詩人や韓国語・中国語・日本語との違い、母音が５つしかない日本語の特性などなど、今後発行される「詩界通信」や「詩界」でお読みいただきたい。
ここでは以下に、当日の写真をアップして、ご報告の一端とします。

●オープニング＆主講演●

冒頭は会長挨拶。上は司会の武西良和＆北岡淳子、講師紹介の佐川亜紀の各氏

↑講師の田原氏　　↓会場風景

閉会の辞→太田理事長


●交流会の風景●

パーティ冒頭　司会は下川敬明・水嶋きょうこ両氏

元会長・清水茂氏の音頭で乾杯！、歓談とスピーチ

●予告ちらし●

（社）日本詩人クラブ「国際交流2016 中国」

H氏賞受賞の中国詩人　田原（ティエン・ユアン）氏が日中翻訳詩について語る

田原氏は、大学在学中に中国語による最初の詩集を刊行し、1991年に来日、立命館大学博士課程修了、文学博士号を取得しました。2001年、第１回留学生文学賞受賞。
日本語の詩集に、『そうして岸が誕生した』(思潮社・2004年)、『石の記憶』(思潮社・2009年第６回H氏賞)、『夢の蛇』(思潮社・2015) があります。
評論集に『谷川俊太郎論』(岩波書店・2010年)、詩選集に『谷川俊太郎詩選集』(集英社文庫、全巻)などがあり、中国語、英語による詩集で第10回上海文学賞はじめ、中国・アメリカ・台湾で詩の文学賞を受賞しました。

また、中国語と日本語で詩作を続ける一方、日本現代詩人の作品を多数中国語に翻訳・紹介しています。『谷川俊太郎詩選』はこれまでに６冊編訳し、中国における日本詩歌見直しのきっかけを作りました。このほかにも、世界的に多方面で活躍しています。

今回は日中の詩の翻訳について、大変興味深いお話が聞けると思いますので、皆様ふるってご参加下さいますようお待ちしております。

日時：１０月８日（土）　１４：００～１６：４５

場所：東京大学駒場　２１KOMCEEレクチャーホール

★講演会★

開会挨拶：　武子和幸会長　　講師紹介：　佐川亜紀会員

講演：中国詩人田原氏「日中翻訳詩について」

★懇親会★　１７：００～１９：００　東大駒場MMホール

***参加費**　講演会：会員無料、一般５００円　懇親会：４，０００円

（講演会・懇親会とも、葉書による出欠確認は行いませんが、皆様多数ご参加下さい）

連絡・お問い合わせ先：国際交流担当理事　細野豊

〒227－0066　横浜市青葉区あかね台２－10－36
e-mail:　yhosono@nc.catv.ne.jp

[トップページ]

(社)日本詩人クラブ例会・イベント　2016年11月

第十期「詩の学校」
第五回　講師・瀬戸口宣司氏による講義「詩とは何か」

11月26日（土）14時～16時半、一般社団法人日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第十期第五回「詩の学校」が、講師に瀬戸口宣司氏を迎えて行われた。瀬戸口氏は、國學院大学で教鞭を取られるかたわら、「井上靖研究会」の中心のお一人として、会を運営されている。

井上靖の魅力を紹介される一方で、詩人は常に「詩とは何か」、という自問を繰り返しながら詩作を行っている。それら詩人の思いを通して考えてみたい――として、吉本隆明・辻井喬・吉野弘・柴田翔・加島祥造……ら、詩人・ライターの言を紹介した。「その人でなければ書けない詩を書くことが肝心で、読んで誰だか分かる詩の個性を確率すべき」とする辻井氏や、「詩は短いが、その中に世界がまるごと含まれている。30の詩があれば、30の世界がある」という、柴田氏の言である。

なかでも詩とは「現実の社会で口に出せば全世界を凍らせるかもしれないほんとのことを、書くという行為で口に出すこと」だという吉本の言葉は衝撃的であった。

詩とは「言語で新しくとらえられた対象（意識と事物）の一面」（吉野弘『詩のたのしみ』）で、そうであるならば、レトリックを通した「発見的認識の造形」力（佐藤信夫『レトリック感覚』講談社）を使って、現代誌にアプローチできるのではないか？　言い換えれば、現代詩が駆使する詩のレトリックを通して、現実認識の方法を学べるのではないか、ということである。

詩と散文のあいだ・想像力と創造力の営みから生まれるレトリックについて・その一環としてのライトヴァースについて……などなどの詳細をお聞きした。

また、日常の現場から、現在の若い方々に接して得られた言語感覚現実認識の視点も新鮮であった。出席者は23名。

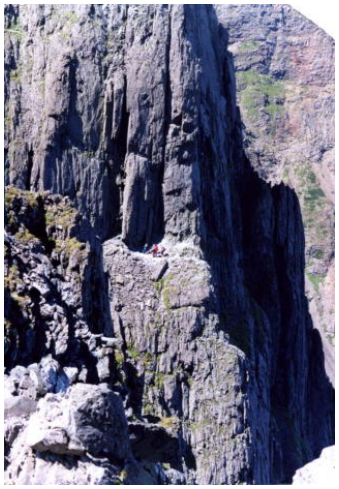
年末に向かう12月はお休み。次回は2017年１月28日（土）、中井ひさ子氏を講師に「受講者の作品」誌評を行います。当日は今期最終回でもあり、校長出席のもと、同時に閉校式となります。みなさまのご参加をお待ちしています。

連絡先：　林哲也　〒364-0007　北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com

林哲也「詩の学校」担当理事

講師・瀬戸口宣司氏

台となった穂高の滝谷



井上靖『氷壁』の舞

11月例会報告

11月12日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、11月例会が催された。この日の参加者総数は67名。

当会はこのところ地方会員を多く抱えた全国組織であることに意識的だが、それを運営に反映すべく、例会の朗読の部でも可能な限り、地方の方々に出演協力をお願いしている。今回は松本市から麻生秀顕氏、広島市から三宅鞠詠氏、福井県美浜町から金田久璋氏を迎えた。

ゲスト講師・八木幹夫氏からは、「西脇順三郎から私が学んだもの」というタイトルでお話をうかがった。

初期の代表作「（覆された宝石）のやうな朝……」（「天気」『Ambarvalia』）から始まり、『えてるにたす』、『旅人かへらず』、『近代の寓話』など、具体的な作品を通して、氏が影響を受け拠りどころとされた西脇ワールドに誘いこまれた。少し前に氏は、『渡し場にしゃがむ女』（2014、ミッドナイト・プレス）というタイトルで、詩人西脇順三郎の魅力を一冊の本に結晶させ、高い評価を獲得された。

120年も前に生まれた西脇順三郎が、現在のグローバリズムに応えて余る広い視野を持ち、いかに日本語に画期的な新鮮さをもたらしたか。そのポエジーが現在の私たちにも新たな刺激として響くことを実感した。

この日は、デリー大学で日本語と日本文学を教えるウニタ・サッチダナンドさんも飛び入り参加された。

国際啄木学会で来日中だったことは幸いで、例会の最後でスピーチをいただいた。私たちは2012年、34人でタゴール生誕150年を祝うインドを訪ね、デリーで二つ（国際交流基金文化センター・インド国立文学院）、シャンティニケタン（タゴール国際大学日本学院）およびコルカタ（ラビンドラ岡倉会館）で催しを持ったが、そのときの国際交流基金での本会議のオーガナイザーだった。

昨年７月には、在日インド大使館がインド国立文学院と連携して行った大使館１Ｆホールでの「インド文学祭」（2015.7.11）で、また続いて日本詩人クラブが来日中の６人のインド詩人・文学者を迎えて東大駒場で行った「インド文学最前線―フロント・ランナーとの対話と交流」（2015.7.13）で、モデレイター役を担ってくださった。

ウニタさんはクラブとの交流に意欲を示され、日印文学交流の節目の年に当たる来年、ともに交流行事を企画しましょう、と呼びかけた。

♣例会終了後には、１８号館４階のオープンスペースで懇親会が行われた。

冨岡例会担当理事と司会の川崎・長尾両氏

武子会長の挨拶

朗読１・麻生秀顕氏（松本市）

朗読２・三宅鞠栄 氏（広島市）

朗読３・金田久璋氏（福井県美浜町）

会場風景１

講演者・八木幹夫氏

締めの言葉・太田理事長

デリー大の日本文学者ウニタ・サッチダナンド女史、緊急参加、　紹介・谷口ちかえ

会場風景２

会場風景３＆４

懇親会風景

㈳日本詩人クラブ　2016年 11月　例会のご案内

日時　2016年11月12日(土) 14時～17時　　会員・会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール

広王井の頭線「駒場東大前」下車，東大正門右手直進21KOMCEE左手側，徒歩4分

例会終了後，同会場前の建物4Fで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

詩朗読＆スピーチ　麻生秀顕氏（栃木市）
三宅勉泳氏（広島市）
金田久璋氏（福井県美浜町）

講演
「西脇順三郎から私が学んだこと」　講師 八木幹夫氏

講師プロフィール
八木幹夫（やぎ　みきお）氏
1947年神奈川県相模原市生まれ。明治学院大学英文科卒。詩集に『狩猟期のソクラテス』（ふらんす堂　1998年，第13回現代詩花椿賞，第46回芸術選奨文部大臣新人賞受賞），『現代詩文庫176　八木幹夫詩集』（思潮社　2004年），『川・海・魚等に関する個人的な省察』（砂子屋書房　2015年）など。歌集に『青き巡礼』（砂子屋書房　2013年）ほか，評論に『透し絵にしゃが女　詩人西脇順三郎の魅力』（ミッドナイト・プレス　2014年），ミッドナイト・プレス主催で八木幹夫を囲む会。

例会担当理事　冨岡悦子

[トップページ]

©1999 一般社団法人日本詩人クラブ All rights reserved.

12月例会/忘年会報告

12月３日（土）　午後２時～午後５時　　東大駒場18号館ホールにおいて、12月例会が催された。
永らく詩誌を主宰されてきた３人のパネラーは、「花」の菊田守氏、「孔雀船」の望月苑巳氏、「Moderate」の岡崎葉氏。
理事会監事で、詩誌「タルタ」を主宰されている千木貢氏を司会者として催されたシンポジウムには、日頃、あまり合流できない方々もお見受けし、忘年会ということもあっただろうが、今回のテーマに対する会員の関心の高さがうかがわれれた。
今回の参加者は76名にのぼった。

宮崎で「禾」を発刊されている本多寿氏や、はるか長崎から 参加された「千年樹」の岡耕秋氏、また「詩と思想」で月間詩誌評を担当され、2016年４月号で全国の詩誌をデータ化された青木由弥子氏も参加された。岡耕秋氏や青木氏からは、Q&Aコーナーで質問もいただいた。現在、全国に同人誌は何誌あるのか知らないが、このような企画は一回で汲みつくせるものでもなく、機会を見て継続的に取り組んでゆくのが望ましいのだろう。

冒頭のあいさつに続く恒例の朗読は、今回は５人の方々にお願いした。以下のスナップに登場されている方々である。佐賀市から上京された桑田窓さんも含め、本多さんや岡さんもおられて、九州勢の勢いを感じた顔ぶれであった。

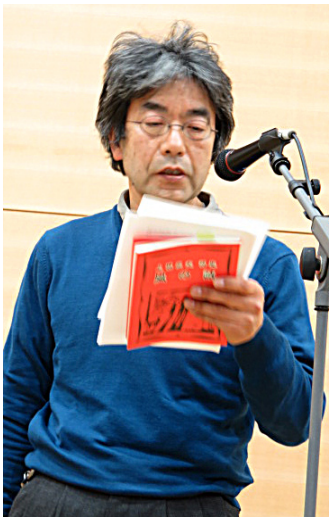
次回一月は通常の例会はお休みで、１月７日午後３時より、交流ラウンジ（学生食堂３F)で新年会が行われる。
トップ画面左欄の「新年会・２月例会予告」を参照いただきたい。

♣例会終了後には、１８号館４階のオープンスペースで懇親会が行われた。

武子会長の挨拶

朗読１・洲史氏（横浜市）

朗読２・桑田窓氏（佐賀市）



朗読３・上林忠夫（高崎市）

朗読４・原島里枝氏（さいたま市）

朗読５・勝嶋啓太氏（東京都）

会場風景１

MC & 各担当理事からのお願いと報告：　左から、「詩の学校」（林理事）＋「三賞」（村尾理事）＋「新入会員」（岡野理事）＋「アンソロジー」（中井理事）

詩誌主宰者によるシンポジウム「詩誌の現在と未来」

司会者・千木貢氏

パネラー：　左から菊田守氏、望月苑巳氏、岡崎葉氏

Q&Aコーナー

会場風景

懇親会風景

乾杯の音頭・神品芳夫氏

㈳日本詩人クラブ　**12月　例会・忘年会のご案内**

●例会　　詩朗読と講演

日時　2016年12月3日(土)第1土曜日 14時～17時　　会員・会友無料　一般500円

会場　東大駒場　18号館ホール
京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分

詩朗読＆スピーチ　州史氏（横浜市）　桑田窓氏（佐賀市）
上林忠夫氏（高崎市）　原島里枝氏（さいたま市）
勝嶋啓太氏（東京都）

詩誌主宰者によるシンポジウム
「詩誌の現在と未来」　講演者 岡崎葉氏　菊田守氏　望月苑巳氏
司　会 千木貢氏

講演者プロフィール

岡崎葉（おかざき　よう）氏
1951年和歌山市生まれ。ポエムマガジン「モデラート」編集発行人。2016年7月に第44号刊行。主な詩集に「風物語R に」（編集工房ノア　1991年）、『春をいくつ』（ウイング出版部　2013年）など。日本詩人クラブ、日本現代詩人会、日本文藝家協会各会員。

菊田守（きくた　まもる）氏
1935年東京中野生まれ。詩誌「花」主宰。2016年5月に第66号刊行。主な詩集に『かなかな』（花神社　1993年、第一回丸山薫賞受賞）、『日本昆虫詩集』（土曜美術社出版販売　2016年）など。日本詩人クラブ、日本現代詩人会、日本ペンクラブ各会員。

望月苑巳（もちづき　そのみ）氏
1947年東京日暮里生まれ。詩誌「孔雀船」主宰。2016年7月に第88号刊行。主な詩集に「鳥肌のたつ場所」（土曜美術出版販売　2004年）、『ひまわりキッチン―あるいは、ちょっとペダンチックな原色人間図鑑』（砂子屋書房　2011年）など。日本詩人クラブ、日本現代詩人会各会員。

司会者プロフィール

千木貢（ちぎ　みつぐ）氏
詩誌「タルタ」主宰。日本詩人クラブ管事。

●忘年会

日時：例会終了後　17時～19時

会費：4,000円

会場：東大駒場
18号館オープンスペース
（18号館ホール前の建物4F）

例会担当理事　冨岡悦子